

水害対策

雨水排水
BCP対策
内水排除
災害復旧
排水強化
遠隔始動

納入事例集ダウンロードはこちら。

株式会社 鶴見製作所

大阪本店：〒538-8585 大阪市鶴見区鶴見4-16-40 TEL.(06)6911-2351 FAX.(06)6911-1800
東京本社：〒110-0016 東京都台東区台東1-33-8 TEL.(03)3833-9765 FAX.(03)3835-8429

北海道支店：TEL.(011)787-8385 東京支店：TEL.(03)3833-0331 北陸支店：TEL.(076)268-2761 近畿支店：TEL.(06)6911-2311 四国支店：TEL.(087)815-3535
東北支店：TEL.(022)284-4107 北関東支店：TEL.(028)613-1520 中部支店：TEL.(052)361-3000 中国支店：TEL.(082)923-5171 九州支店：TEL.(092)452-5001

www.tsurumipump.co.jp

ウレタンボート

自治体・消防機関へ
361艇 納品

水害救助支援 セーフティボート

車いすのまま乗降り可能

ハマウレ 検索

浜口ウレタン株式会社 ☎053-485-1331 担当 山田

ADJWロックが解決!

「環境」そして「人」に寄り添う「思いやり」がオリジナル製品を生み出す

浮上・飛散防止 側溝内部・枳内に入水する豪雨激水カへの対策 実用新案 NETS

抑制プレートが効果を発揮!

コアング効果 越流抑制グレーチング 2022-000046

困ったを『思いやり』で解決

石田鉄工株式会社 営業本部：三重県桑名郡木曽岬町富7番地3 TEL:0567-68-6811

ゲリラ豪雨に備える

鶴見製作所

鶴見製作所は内水排除から工場の事業継続計画(BCP)対策まで、さまざまな場面に合わせた水害対策を提案する。中でも想定外の豪雨による降雨増加に対応する仮設ポンプ設備向け水中ポンプ(フランジ接続仕様)は、本設より短期間で設置でき、数多くの現場で採用されている。

同製品は耐久性・メンテナンス性に優れ、据え付けが容易。水害リスクの高まる降雨シーズンに集中した対策も可能になる。点在する複数のポンプを遠隔で一元管理、人手不足の解消やリアルタイムな設備運用を実現する「遠隔始動排水システム」も提案可能。ホームページからカタログや納入事例集をダウンロードできる。

文化シャッター

文化シャッターは集中豪雨による開口部から建物内部への浸水を食い止める「ラクセットハイタイプ」を販売している。浸水高さ1.5mまで対応し、パネル1枚の重量は最大サイズで約14kg以下、軽量設計のアルミ製止水板で、最大3段まで積み上げできる。開口2枚の開口部を積み上げる場合、5分程度で設置できる。

漏水量は浸水防止用設備に関するJIS規格「JIS A 4716」でWS4.3相当。パネル1枚の高さは300mm、400mm、500mmの3種類があり、組み合わせで必要な浸水高さに対応する。ハザードマップや過去の浸水被害を基に、最適な浸水対策を行える。

大雨発生1.5倍 近年

局地的大雨とは、短い時間に激しく雨が降る状況のことを指す。具体的には、降水量が通常の5倍以上に増加している。毎時50mm以上の雨は道路が大規模冠水するレベルの雨量で、降るペースが速い。温暖化が進むと、大気中の水蒸気の割合が増え、大雨が発生しやすくなる。国内での水災予測に備えるため、民間の予報サービスを利用する企業が多い。1993年に政府が実施した気象業務法の改正で、民間事業者も独自の天気予報を発表できるようになった。また、23年の気象業務法改正では、最新技術を用いた予報業務の許可基準の最適化や、防

災に関する予報の適切な象測器の拡充など、多様な提供の確保、予報業務を二一に充てた予報をに用いることができる気 提供する。

国内で水害への事業継続計画(BCP)を行う企業は、地域のハザードマップと民間の気象予報を併せて利用することで、水害リスクを知り、対策を講じている。

同研究成果は国土交通省の「TCFD提言」における物理的リスク評価の手引き「気候変動を踏まえた洪水による浸水リスク評価」で利用可能な将来洪水ハザード情報として紹介されている。M&Aインテリクス(企業統治)コード改訂が、総研はIT企業から地方の金融機関など、56社のコンサルティングを担当する。

将来の広域洪水ハザードマップを共同で開発した芝浦工業大学の平林由希子教授は「日本国内は各地域にハザードマップがあるが、そのようなマップの整っていない途上国などの地域でも洪水リスクを示すことができるようにしたい。今後は観測データからの積み重ねや堤防の情報をもとに入れ込むことで、より正確なマップになっていく」と今後の見込みを述べた。

石田鉄工

石田鉄工の「越流抑制グレーチング」は、端に取り付けられた抑制プレートがスロープの役割を果たし、負圧によって側溝内に雨水を引き込む力を強めている。これにより、一般的なグレーチングでみられる、雨水が勢いよく流れこみ側溝内に落ちずグレーチングの上を通り過ぎる「越流現象」を最小限に抑制できる。

また、「ADJWロックグレーチング」は、アジャスター金具で受け枠と躯体(側溝・雨水升)とを一体化し、グレーチングはボルトで固定する。Wロック機構を装備。これにより、側溝内部・集水弁内へ流れ込む想定外の激流によるグレーチングの浮き上がり、飛散を防止する。

浜口ウレタン

浜口ウレタンが手がける「ハマウレボート」は、空気の代わりに硬質ウレタンを注入して成形したゴムボート。硬化したウレタンが船体の形状を維持するため、安定性が高く、「穴が開いても沈まない」と高い評価を得ている。災害救助用などで、全国の自治体や消防署への納入実績があり、今年4月までに361艇を納入した。主力の「SUB200」は、幅1.3m、全長2.9mで定員6人のオールでスタイブ。重量は55kg、ノーマンタイヤの取り付けが可能で、陸上での移動負担を軽減できる。2馬力の船外機取り付け仕様もある。リモコンの無料貸し出しも行っており、要望に合わせた特注品対応が可能。

豪雨 頻発・激甚化 - 企業活動が停滞

生産拠点浸水道路冠水

広域洪水ハザードマップ

全世界で無償公開

国内で水害への事業継続計画(BCP)を行う企業は、地域のハザードマップと民間の気象予報を併せて利用することで、水害リスクを知り、対策を講じている。

同研究成果は国土交通省の「TCFD提言」における物理的リスク評価の手引き「気候変動を踏まえた洪水による浸水リスク評価」で利用可能な将来洪水ハザード情報として紹介されている。M&Aインテリクス(企業統治)コード改訂が、総研はIT企業から地方の金融機関など、56社のコンサルティングを担当する。

将来の広域洪水ハザードマップを共同で開発した芝浦工業大学の平林由希子教授は「日本国内は各地域にハザードマップがあるが、そのようなマップの整っていない途上国などの地域でも洪水リスクを示すことができるようにしたい。今後は観測データからの積み重ねや堤防の情報をもとに入れ込むことで、より正確なマップになっていく」と今後の見込みを述べた。

NICE SHOOT GOAL

URAWA REDS SHUSAKU NISHIKAWA

BX 文化シャッター

確かな技術力で、浸水から守る。

近年、日本各地で集中豪雨による浸水被害が多発しています。中でも都市特有のものは経済的損失も大きく、その対策が急がれています。文化シャッターでは短時間で簡単に設置でき、建物内部への浸水を低減する止水製品をラインアップし、用途に応じたベストな製品をご提案いたします。

BX止水板 ラクセット ハイタイプ

素早く簡単に設置が可能で、コンパクトな納まり。

- 止水高さ1.5mまで対応
- 広い開口部に対応
- 設置枠はコンパクトな納まり

浮上起伏式止水板 アクアフロート

電源不要! 増水にとまない浮力で自動起立。

- 止水高さ2mまで対応
- 大開口に対応
- 倒伏時は車両の通行が可能